

麻生多摩美の森だより

麻生区市民健康の森 麻生鳥のさえずり公園

第 28 号 2010 年 3 月 30 日発行 発行 ; 麻生多摩美の森の会
発行責任者 ; 間野 洋 編集者 ; 木村 信夫

平成 21 年度を振り返って

会長 間野 洋

今年度は 4 月に会長および副会長 1 名が改選されましたが、活動内容は新しい企画も加わり、おおむね順調に推移しました。

各分科会で見てみますと、森づくりにおいては、西側斜面の除草刈り、アズマネザサの管理が 1 月にスタートし、長年の懸案事項が緒につきました。また特筆すべきは明治大学 M - Navi(学生に社会人基礎力をつけるための正課外プログラム)による里山ボランティアとして総勢 31 名の参加で北斜面のアズマネザサの伐採、枝打ちを行いました。民間のボランティア団体の受入れは初めてのことで、来年度 5 月に再度のオフアがあったので、ぜひ受け入れたいと思っています。

施設工作分科会では 5 月末に水周りの排水路整備が完了し、森の家周囲の砂利敷設と、藤棚下のテーブルの脚の取替えをしました。また森全体の排水計画は来年度の梅雨前に整備する段取りになっています。

畑の管理分科会は例年通りの活動でしたが、来年度は意欲的新企画が登場しそうです。

広報分科会ではホームページの作成を開始し、4 月中には開設したいと考えています。

イベント関係では、11 月の樹木観察は、始めて多摩美の森周辺から外に出て、六義園で開催しました。当会発足当初にご指導いただいた故北澤清先生編集の「六義園の樹木」を教材に、意義深い観察会となりました。

8 月には「夏の星空を楽しむつどい」を開催。雲が厚く観測は十分出来ませんでした。オーロラ天文台の小川さんご自身が船上で観測された皆既日食のお話と貴重なビデオ

が拝見できました。

西生田小学校の総合的学習への協力は、3 年生 144 人、5 年生 178 人を対象に延べ 5 日間にわたって行いました。5 年生の環境体験学習は、「里山フォーラム in 麻生」で児童によって、素晴らしい発表がされました。

第 9 回植樹祭 & 収穫祭は好天にも恵まれ 200 人以上の参加で盛況でした。特に「歌でつなぐ森の楽しみ」をテーマに、初めて近隣のママさんコーラスの参加をいただき、全員の大合唱で盛り上がりました。麻生区長、多摩美町会長の祝辞もいただき、地域コミュニティづくりにも寄与したと思います。

昨年度から始まった多摩美の森でのプレーパークへの協力は 10 月、1 月の 2 回開催されました。いずれも 100 名以上の児童、父母が参加し、森での遊びを楽しみました。来年度は 4 回以上の開催が見込まれています。

残念なのは平成 14 年度から 7 年間続けてきた竹炭焼きが中断したことです。労力的にも厳しく、今後検討の必要が出てきました。

フォーラム関係では、「かわさき花と緑の活動団体交流会」に参加。「里山フォーラム in 麻生」では「私達が“地域”から学んでいること」をテーマに 5 つの小学校の児童の発表があり感動しました。かわさき自治推進フォーラムでは「市民健康の森の実践」における方向性と問題点が討議されました。

年間活動総日数は 92 日となりました。市区行政からのご指導、近隣町会の皆様のご支援、会員のご協力をいただき心から感謝いたします。来年度も宜しくお願い申し上げます。

西生田小学校5年生“森で環境学習”

副会長 長澤

麻生区市民健康の森で、西生田小学校5年生178人の環境体験学習が平成21年12月14(月)、15日(火)(各午前9:45~12:00)の2日間にわたり、当会会員10名あまりの参加・指導で行われました。

1日目に1・2・3組107名、2日目に4・5組の71名の2班構成で、講座内容は、
樹木(緑)の大切さと多摩美の森の活動
堆肥作り、森の散策
樹木の二酸化炭素吸着量の測定

1. 緑の大切さを間野会長より講話 20分
今地球は二酸化炭素の増加などで温暖化が問題となっていること、植物の葉のしくみと、水と二酸化炭素と太陽エネルギーを活かす光合成の働きなどに触れながら、緑と生命の循環の大切さや、今後の取り組みなどについて学習を行った。

2. 落葉をかいて堆肥を作ろう 20分
児童たちは思い思いに落葉をかいて、大きな袋などに入れ、堆肥用に用意した大きな穴に落とし込んで踏み固め、落葉・米糠・土を何層にも混ぜてトランポリンのように踏み固めた。大半の子供たちは経験がなく、強烈な印象が記憶に残ったようだ。

3. 森を散策して学習 20分
最初に「今日はコナラ・クヌギを必ず覚えよう」を課題に森を散策。木の幹をさわってその肌の感触の違い、葉っぱやドングリの違いを実体験し、何とか覚えたようだ。その他の特徴的な樹木や野草の観察をしながら、ときには森のおじさんより「ハイ、この木何？」と質問も。

4. 樹木の二酸化炭素吸着量の測定 40分
8名前後の班編成で樹木3本の幹周りを測定し、葉面積×吸着指数=二酸化炭素量kg/年を算出した。さらに会員の指導で、3本の樹木が人間何人分の二酸化炭素を吸着

しているかを算出し、感想文を書いて環境調査表を完成させた。

5. 学習の結果と感想を発表 20分

班別に測定結果と感想発表を行った。今まで樹木が二酸化炭素を吸収することは知っていたが、その量や何人分かの数値を出してその大きさに驚いている。観測途中での指導者のいろいろなコメントが心に響き、今後は緑を大切に、また二酸化炭素削減に努力しようとの心意気となったようだ。



児童よりお礼の便り 全員から届きましたが、紙面の都合上一部だけ紹介します。

環境のことについて教えていただきありがとうございます。自然のこともよく知れてよかったです。一番おどろいたのは、1本の木でたくさんの量の二酸化炭素をきゅうしゅうできることです。このことはぜんぜん知らなかったのですごくおどろきました。コナラやクヌギのみきや葉の特ちょうも知れてよかったです。多摩美の森の会のみなさんが「コナラとクヌギはおぼえて帰ってね」と言っていたので「必ずおぼえるぞ」と思い、特ちょうなどをがんばっておぼえました。これからは、木をよくみてコナラやクヌギをたくさん見つけられたらいいなとおもいました。多摩美の森の会のみなさん、本当にありがとうございました。

(H・Sくん)

今日は、自然環境についていろいろなことを学びました。私がすごいなあと思ったのは木の働きです。木は、私たちが生きるのに必要な酸素を出していると聞いてびっくりしました。人間が出している二酸化炭素をきゅうしゅうしてくれたり、葉が水分をじょうはつさせて気温を下げてくれたりし、環境にも人間にもかかせない存在だなあと思いました。私はこの体験学習で色々教えてもらったことを忘れずに自然を大切にしていきたいと思います。今日は、ありがとうございました。（N・Tさん）

2010 里山フォーラム in 麻生 5 小学校の発表に感動

3月13日（土）、麻生市民館大会議室で、「集い語ろう！ みどりと農の文化をいかすまち」をテーマに開催。16団体が活動の展示、発表をし、100人の参加者で一日熱い想いの交流をしました。

基調講演は、岩崎正弥愛知大学教授による「“場”の豊かさを求めて 地域のこれからへ」。地域づくりの根本は、暮らしの“場”を豊かにすることにあり、それを農（自然と人の交流）の思想にもとづく、子どもを中心とした「校区コミュニティ」づくりの運動によって実現していくことを提案されました。

そして、5つの小学校から、まさに地域と連携して場の豊かさを学び発信している活動の発表。金程小：どんど焼き、千代ヶ丘小：万福寺人参、麻生小：稲作体験・麻生川環境、岡上小：野菜・大豆・米の栽培・料理・加工など、児童と先生の報告に、感動が広がりました。

西生田小5年生は、多摩美の森での環境体験学習（上記）の前には、東京ガスの協力でCO₂濃度と温度上昇の実験、後には校庭の樹木によるCO₂吸収量の測定をして、樹木の役割をさらに確認。自分たちの生活を深く見つめるなど、大変充実した環境学習を報告しました。当会として大きな励みです。（木村記）

海の子・川の子・山の子交流会 開催

里山フォーラム事務局長 石井よし子

川崎にもつい30年、40年前までは、人々の暮らしと共にあった身近な里海・里川・里地・里山の文化と自然がありました。今、懐かしい未来として人々の努力により自然の再生・見直しの機運がようやく芽生え始めています。

昨年11月21日（土）～22日（日）にかけて、そんな未来を託された川崎の海の子・川の子・山の子が黒川青少年野外活動センターに集まり、交流や体験発表を行いました。

海の子は東門前小学校生10人と先生方、大師干潟館の佐川さん、川の子はとどろき水辺の学校で活動している中原区内各小学校生9人と事務局の鈴木眞智子さんや千葉大の学生、山の子はくじらの森（向原緑地）のある金程小学校からの5人と保護者の方、農の風景が息づく岡上小学校からは、児童2名と先生方が参加しました。（皆さんの協力を得て総勢83名）

プログラムは多摩丘陵のまち、麻生ならではの体験をたくさんしていただくとうと盛り沢山でしたが、お天気に恵まれ、古沢の谷戸の畑の収穫や黒川の里地・里山散策ができて何よりでした。

市民健康の森の長澤副会長は、地球環境体験学習「葉っぱで吸収二酸化炭素」、小座間さんはワラ縄ないなどの指導をされました。



古沢の畑で収穫体験

多摩美の森でプレーパーク

飯野優子

麻生プレーパークを創る会では、平成 20 年度から麻生多摩美の森でのプレーパークを開催し、21 年度は 10 月、1 月と 2 回の開催となりました。当会では 3 年前から区内の公園や緑地を使ってプレーパークを開催してきました。

プレーパークでは、普段は「危ないから」と禁止しがちな鋸や金づちなどの工具も、子どもたちの「やりたい」気持ちに伝えられるよう自由に使えるようにしています。

多摩美の森でもダンボールや端材、工具などを「好きに使っていいよ」と用意していましたが、最初は何をしていいのか戸惑う子どもたちもいました。けれど、他の子がそれぞれに遊んでいる様子を見て「面白そう」「あれ、やってみたい」という思いが生まれ、回数を重ねるごとに工夫や子どもたちの協力が見られるようになりました。穴掘りに夢中になる子、ダンボールで基地を作る子、金づちにはまる子。それぞれの遊びが交差しつながら、また別の遊びへ広がっていきます。

「自然の中で十分に遊んだ記憶が、将来、自然保護の気持ちに向かう」という話を聞いたことがあります。今後も豊かな森で体と五感をフルに使って遊ぶ機会を意識して創って行きたいと思っています。是非プレーパークへ！！



今後の活動予定 副会長 中谷一郎

春は新緑が美しい季節。樹木の種類は葉っぱで見分けるそうですが、新聞によれば DNA による植物分類体系が進んで他人の空似が少なくなり、カエデ科（イロハモミジ）がムクロジ科との事です、なにはともあれ森で花と緑の風景を楽しんでください。

今後の活動予定は下記の通りです。

- 4月 3日(土) 篠竹林の整備、下草刈
 - 4月 18日(日) 排水路整備、畑の準備
 - 4月 24日(土) 第7回通常総会
 - 4月 25日(日) 春の観察会(帰化植物と多摩美の森)
 - 5月 1日(土) 畑準備、除草、清掃
 - 5月 8日(土) 明治大学里山ボランティア、東側斜面の下草刈、カブトムシのお宿の補修
 - 5月 12日(水) 予備作業日、ヒエ・アワの種蒔き
 - 5月 16日(日) 第16回全国植樹祭川崎サテライト(生田緑地)、麦の刈取り準備
 - 6月 5日(土) 里芋の植付け、除草
 - 6月 20日(日) さつま芋の植付け、除草
- またこの間の補助作業日は水曜日で、4月 14日、28日、5月 26日、6月 9日、23日です。

会員募集中です 一度見学にお出で下さい。里山の楽しさを親子で味わってください。年会費 1,000 円。

麻生区のホームページで、市民健康の森を紹介、本紙のバックナンバーも見られます。
<http://www.city.kawasaki.jp/73/73tisin/miryoku/sanka/mori.htm>

皆さんの投稿、感想をお寄せ下さい。

< 問合せ・連絡先 >

間野 洋 044-966-7233

mano-h@jcom.home.ne.jp

木村信夫 044-954-7855

kimura-yatsu@nifty.com